

にしん 鯺番屋「旧ヤマシメ福井邸」を 地域の交流拠点として再活用する

公益財団法人はまなす財団 事業産業部

主任研究員 藤田 洋

取り組みの沿革

旧ヤマシメ福井邸（以下、ヤマシメ邸）を再活用する話は、鯺の群衆が絶えて以来、幾つかの変遷を経て積丹町の所有となっていた同邸に、平成19年、町の財政難から売却話が持ち上がることでスタートします。

売却計画を聞いた町内有志から、当時、後志観光のあり方調査（国土交通省業務）を進めていた、はまなす財団に相談があり活動支援が始まりました。

同調査は後志地域の観光資源を発掘・活用し地域を回遊する観光づくりと具体的プランを提案するもので、積丹町宇美町の建造物群はかつての繁栄ぶりが覗えるものの、ヤマシメ邸は長年手入れがなく朽ちる一歩手前の状況でした。町内関係者には朽ちていく建造物を晒しておくのは忍びないとの意識が強かったと思われませんが、はまなす財団はヤマシメ邸と建造物群の資源性に着目し、活用の可能性を提案して有志による「積丹町美国鯺場プロムナード研究会」が立ち上がりました。研究会は自ら保存に取り組む覚悟を熱く町長に訴

えて売却中止の約束を貰い同邸を活用する道が拓けることとなりました。

取り組みの内容

早急に雨漏りに対処するため公募事業の支援と町内建築事業者の一部無償協力により屋根改修を終えて復活したのが建物改修の初めです（平成21年6月）。会員有志による清掃と簡易な補修は多数に亘り、取り敢えず集会機能を確保しました。

ヤマシメ邸の活用について、はまなす財団をはじめ関係者を交えて議論を重ねたので、研究会が取り組む活動の骨格は早い段階でつくられました。

活動する方向は概ね次のとおりとなりました。

①喫緊に取り組むべき箇所等の補修、②資源的価値の確認と周知、③協力者づくり及び町との連携、④地域資源と連携した交流及び新たな観光づくり検討と実行、⑤活用の方向に沿った邸内外部の改修の検討と実行、⑥活動経営の安定と運営体制の確立で、具体的な取



再オープンした「鯺伝習館ヤマシメ番屋」



平成21年 有志による清掃

り組みはその都度状況に応じて対応してきたものです。

具体化する取り組みの中で、資源的価値の確認については古建築の専門である北海道職能大学校・駒木定正教授をはまなす財団が紹介し、大学校事業として平成21年7月から半年に亘って建造物群の概要とヤマシメ邸細部調査がなされ、成果は「積丹町美国地区歴史的建造物調査結果報告書」として提出されました。研究成果は美国町の建造物群とヤマシメ邸の歴史的価値を裏付け、まちづくりに活かす基礎データとなり以後の活動意欲を高めるものとなりました。

組織的に活動するため「やん集*小道推進協議会」と改変し（平成20年10月）、広報誌「やん集小道づくり」を町民向けに毎月発行するほか、毎月24日を「鯨（にしん）の日」として古老を交えた懇談会を開催するなど地域の人材を活かした活動で賛同者を増やし、さらに町内外にも協賛会員を募ったところ100名強の参加者を得る反響を得ました。

協力関係が一番重要なのはヤマシメ邸所有者である積丹町ですが、実績を重ねることで使用から無償譲渡へと提案があり、責任を明確にして応えるべく「一般社団法人積丹やん集小道協議会（別所範一代表理事。以下、協議会）」に改変し法人格を取得しました（平成23年8月）。この時点では未整備も有った同邸を「鯨伝習館ヤマシメ番屋」として一般に開放し（23年6月）、積丹町の鯨にまつわる歴史文化の発信を始めました。

ヤマシメ邸を拠点に他の地域資源と交流する試行が平成26年11月にフットパス事業として行われました。専門家の指導を仰ぎ、町内外の多数の参集者が、この事業のために学習した地域ガイドとともに遊歩して、新しい観光可能性を確認することとなりました。

積丹町に対しては利用計画を明確にして協議を進め、平成26年9月に敷地・附属建物を



平成26年 フットパスによる美国町遊歩

含むヤマシメ邸が協議会に無償譲渡されました。同時に活動を拡大して応えるため協議会は同邸の改修工事に踏み切ることとしました。

施設の概要

鯨漁最盛期の大正初期に建てられた漁家建築であり、外観は切り妻、平入、下見板張で装飾も施され、内部は親方家族と漁夫の生活空間が中央の土間で分けられ、前者には欄間、座敷飾り、書院、長押しと格式に差をつけています。後者では中央が吹き抜けになり、四隅・通し柱を太くした漁夫向けの堅牢な作りです。同邸の特徴を活かす活用について建築の専門家と議論を重ね、平成27年10月から翌年3月までの間改修が施工されました。期待される拠点機能充実のためにトイレ改修がな



館内（家族居住部）

* 本来は「やん衆」であり、北海道で鯨漁などに雇われて働いた男たちのこと



館内（漁夫生活部） オープン時の試食会



ヤマシメ邸近隣の景観

され、また、鯨の歴史文化を感じる休憩スペースも設置、回廊付きの漁夫の間はギャラリー等催事や体験学習等多様な交流可能な空間とし、座敷の意匠等の再整備、なかでも厨房には重点が置かれました。積丹町を特徴づける海の食等の提供サービスが充分可能な設備となっています。

予算の制約があり全てに絢爛たる改修とは言えませんが使い込むことで味わいの付加価値が加わると予想されます。そのためにも沢山の来訪者が必要です。

今後の活動について

積丹町は北海道で唯一国定公園内海中公園を持ち水中展望船が運行され、海鮮の食の町としても著名でありながら、観光資源が各々単一の観光で止まっている点が課題とされてきました。一方で国道229号通過観光客は年間100万人と言われながら美国町で滞在する者がなく、さらなる魅力発信による滞在者増が期待されてきました。

歴史的建造物群による新たな観光資源と既存の観光資源の連携による新しい美国町のランドデザインが見えつつあり、その中で「鯨伝習館ヤマシメ番屋」は地域価値を発信するランドマークとして先行する役割が明確になってきました。

実際には、ここまでの協議会活動は資金の確保に苦労を重ねています。はまなす財団は専ら

人的支援による活動の方向付けを支えてきましたが、積丹町は元より多くの公益法人の助成や研究機関の研究支援、専門家及び地域のボランティア等多くの協力に支えられて来ました。今までの協議会の真摯な取り組み姿勢が評価されてきたことに加え、今後は協議会の自活可能な運営と地域が潤う観光形成により、民間主体による地方創生のモデルとして展開することが期待されています。はまなす財団としても活動支援を続けることとしています。

アクセスマップ

鯨伝習館ヤマシメ番屋（入館料無料）

〒046-0201

北海道積丹郡積丹町美国町船濶39番地

開館時期 5月下旬～10月上旬

開館日 金曜・土曜・日曜・祝日

開館時間 11：00～16：00

※上記は平成28年の予定です

連絡先 0135-44-2610（お宿かさい：別所まで）

